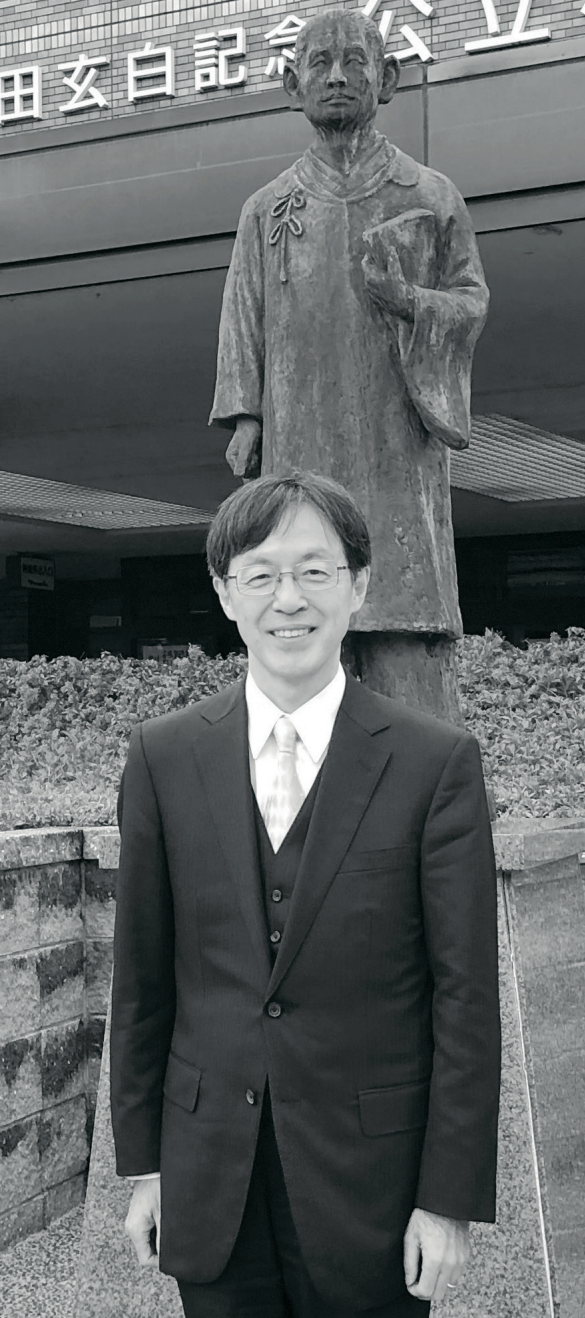




やまだ・まさひと

1980年東京医科歯科大学医学部医学科卒業。1984年同大学院博士課程医学研究科神経内科学修了（医学博士）。カリフォルニア大学サンディエゴ校博士研究員、東京医科歯科大学大学院助教授などを経て、2000年より金沢大学医学部医学科教授。2001年より現職。脳の異常タンパク質蓄積を研究対象に、脳老化、認知症、アミロイド・プリオン研究などを行う。

卒業生の今 活躍する医科歯科人

地域コホートを起点とする 認知症予防研究で 杉田玄白賞を受賞

金沢大学大学院
脳老化・神経病態学（脳神経内科学）教授

山田正仁氏
Masahito Yamada

2018年12月、金沢大学神経内科学教授の山田正仁さんは、「食」による認知症予防の研究により、「第17回杉田玄白賞」を受賞した。同賞は、食と医療、健康、地域活動に関する進歩的な研究に対して与えられる。

「私の専門は脳神経内科なので、『解体新書』で『神経』という日本語を造語した杉田玄白先生の名前を冠した賞をいただけたことには、特別な思いがあります」

1980年に東京医科歯科大学を卒業した山田さんは、脳神経内科医として、長年にわたつ

て認知症克服に向けた研究を続けている。今回受賞対象となった研究では、認知症と緑茶の関係を調査し、緑茶を毎日飲む人は飲まない人に比べて認知機能低下のリスクが低いことなどを明らかにした。

「学生時代、難治疾患研究所の遺伝生化学研究室や神経解剖学教室での抄読会で、研究や臨床の面白さを知りました。卒業後、神経内科学の塚越廣先生の下で全身と脳のアミロイドーシスについて学んだことが、私の認知症研究の始まりでした」

今後認知症の予防・治療法確立を目指すという気持ちは揺るがない。

「現在は、認知症発症の遺伝子的リスクが高い人のリスクを低減させる食品化合物の効果やメカニズムを解明する研究を進めているところです。母校の皆さんとも連携して、認知症研究・診療を進めることを楽しみにしています」

B

第17回
杉田玄白賞を
受賞

杉田玄白賞

「解体新書」を発行したことで知られる小浜藩医・杉田玄白の功績に相応しい、進歩的な研究に取り組む研究者や団体を顕彰する賞。福井県小浜市が主催。

「食」による 認知症予防の 研究

石川県七尾市中島町における地域コホート研究「なかじまプロジェクト」（地域住民の参加率90%以上）を起点とした研究を展開し、ライフスタイル（特に食品）関連因子を用いたアルツハイマー病の予防法の開発に取り組んでいる。このプロジェクトにおいて、緑茶やレモンバームなどの食品に含まれるポリフェノールの抗アルツハイマー病作用を明らかにした。

授賞式

2018年12月15日、杉田玄白の故郷・福井県小浜市で開催。松崎晃治・小浜市長から表彰状授与、受賞の挨拶の後、「認知症を知る、防ぐ、治す ～「食」による認知症予防をめざして～」と題した受賞記念講演を行った。

